

2019年1月11日

**真のグローバル・メディカル・テクノロジーカンパニーへの飛躍を目指した  
企業変革プラン「Transform Olympus」について**  
～企業価値を一層向上させ、当社ステークホルダーの皆様の期待に応えるための諸施策～

- 経営意思決定の迅速化・効率化、リスクマネジメントの一元化およびグループ全体における経営リソース配分の最適化を追求
- 効率性改善及び成長機会獲得のため、新たなグローバル・グループ・マネジメント体制を構築し、人事制度をグローバルに統一
- 医療事業を「内視鏡事業部門」と「治療機器事業部門」へ再編成することにより最適化を図るとともに、治療機器事業部門の統括拠点を米国内に配置することで、今後の成長を一層促進
- コスト管理策を最優先事項として集中的に実施：先ずは、2020年3月期の販売管理費を2018年3月期の水準へ圧縮
- 2019年4月1日付で竹内康雄が代表取締役社長執行役員兼 CEO に就任予定
- 当社ビジネスのグローバル化に伴い、指名委員会等設置会社への移行について、2019年6月下旬開催予定の2019年定時株主総会に対してご提案することを検討
- 取締役会のダイバーシティ化に向け、新取締役候補者3名の選任を検討：ValueAct Capital社のパートナーであるD. Robert Hale氏を含む、グローバルな知見・経験を有する候補者を検討

本日、オリンパス株式会社(以下、「当社」)は真のグローバル・メディカル・テクノロジー(以下、「メドテック」)カンパニーへ飛躍することを目的として、当社の業績を向上させ、当社のステークホルダーの皆様のための一層の価値創造を実現するための抜本的な企業変革プラン「Transform Olympus」(以下、「本プラン」)を以下の通り公表いたします。

本プランを通じて、当社のガバナンス、リーダーシップおよび人事制度等を再構築し、グローバル企業としての当社の経営の機動性及び効率性を向上するための基盤を整備いたします。本プランにより再構築される経営基盤の下で、米国内視鏡治療市場を中心とした当社の主要市場において一層の成長を実現するとともに、相応のコスト削減を実現しうると、当社取締役会及び当社経営陣は確信しています。

4月1日付で現取締役副社長執行役員兼 CFO 竹内康雄が代表取締役社長執行役員兼 CEO へ就任し、本プランを実行いたします。2012年に代表取締役社長執行役員に就任し、当社のグローバル展開や経営の安定化などの重要局面に対応した笹宏行は、本プランによる組織体制変更が行われる4月1日以降も当社の取締役として留任する予定です。今回の代表取締役社長兼 CEO 就任に際しての、竹内のコメントは以下の通りです。

「『Transform Olympus』は、現社長の笹宏行が2012年に社長に就任して以来、数年間にわたる取り組みの集大成であると考えます。同じく2012年に笹は中期経営計画(中期ビジョン)を発表し、その後中期経営計画「16CSP」の計画期間初期において持続的な成長を実現してまいりました。笹のリーダーシップの下、当社はグローバルなコンプライアンスやガバナンス強化の基盤となる内部管理体制を強化するとともに、マトリックス型事業運営体制を導入し、それにより社内リソースを最大限活用する体制を整備し、品質管理部門及び法規制対応部門を強化してまいりました。また、欧州と米州の子会社経営陣を当社経営陣に抜きすることにより当社経営体制を再編成し、事業部門の垣根を越えてベストプラクティス(優れた取り組み・成功体験)が共有される体制整備を進めてまいりました。

当社は、明確な目的、責任、及び時間軸の下、当社の事業をさらに進化させるべく、企業変革プラン『Transform Olympus』を策定し、実現することで、次の大きな一歩を踏み出します。創立 100 周年を迎えるなか、今回のプランによってグローバル・メドテックカンパニーとしての当社のグローバルのオペレーションをより強化・一体化いたします。新組織体制の導入は、当社のオーガニック成長を一層促進するとともに大幅なオペレーションの効率化を実現し、次の 100 年を成功に導くための準備と考えています。また、当プランは当社企業価値を一層向上させることに対する当社のコミットメントといえます。

笹の当社へのこれまでの貢献に対して、感謝しています。また、私自身、新たな役割の下で、今後もオリンパスのために働く機会を頂戴し、大変ありがたく存じます。本プランを実行することで、当社のパフォーマンスや効率性を向上させ、『世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現』という当社の存在意義 (Our Purpose) の実現を図る所存です。」

## ●グローバル経営体制及びグローバル人事制度の導入

当社は、今後の最適なオペレーションおよびコスト削減の実現を見据え、意思決定プロセスの迅速化や事業管理の一体化に向けた経営体制の再構築を行い、グローバルでのリーダーシップを強化します。新体制では、各事業部門の責任者がそれぞれの担当事業部門の売上・収益性について明確な責任を追うこととなります。

4 月 1 日付で、5 名の経営執行責任者がグローバル・グループ全般を統括する経営体制となります。執行責任者は、Chief Executive Officer (CEO) は竹内康雄、Chief Operating Officer (COO) は田口晶弘、Chief Technology Officer (CTO) は小川治男、Chief Financial Officer (CFO) は境康、そして Chief Administrative Officer (CAO) は Stefan Kaufmann (シュテファン・カウフマン) が就任予定です。この 5 名の執行責任者が、グローバル事業戦略と制度に基づいて意志決定や執行の責任を負うこととなります。また、各事業部門の責任者は Chief Operating Officer (COO) の直轄となります。

グローバル成長の加速及びグループ全般にわたる優秀な人材の獲得・雇用維持に向け、全社の人材マネジメントシステムを刷新するとともに、グローバルな組織体制の見直しによる効率性を追求します。グローバル人事制度を導入する上で、グローバル人材マネジメントのための情報インフラも整備する予定です。この取り組みによって、事業パフォーマンスの強化、従業員数の管理、およびグローバル規模での適所適材の人材配置が実現可能となります。

注) CEO: 最高経営責任者、COO: 事業統括役員、CTO: 技術開発統括役員、CFO: 財務統括役員、CAO: 人事・IT・SCM・組織開発統括役員

## ●医療事業の再編成: 「Transform Medical」

当社医療事業は、現行の 5 事業部門体制から 2 事業部門体制 (内視鏡事業部門及び治療機器事業部門) に再編いたします。ビジネスモデルの違いが明確な 2 事業部門体制とすることで、機動的且つ効率的な事業運営が可能となり、グローバル・メドテック業界におけるオリンパスの競争力強化を図ります。

既にグローバル・リーダーとしての地位を確立している内視鏡事業部門 (消化器科、呼吸器科及び外科内視鏡キャピタル製品、及び関連ソフトウェア、関連リプロセス、修理サービス、及びシステムインテグレーションなど) は、引き続き日本国内にグローバル事業統括拠点を配置し、事業インフラや業務プロセスの改善を目指します。

治療機器事業部門 (消化器科、呼吸器科のシングルユース製品、処置具、エネルギー・デバイスおよびその他の外科用シングルユース製品、泌尿器科、婦人科及び耳鼻咽喉科製品など) は、米国内にグローバル事業統括拠点を配置し、世界最大の治療機器市場である米国での医療業界のクラスター及び最大顧客へのアクセスを強化いたします。

今後新製品をタイムリーかつ効果的に展開しうよう、新体制の下、各事業部門における戦略実行とコスト構造の改善を行ってまいります。

#### ●コスト削減および資本効率改善への取り組み

16CSP の計画期間初期においては投資が先行していましたが、今後は、当社の営業利益率と資本利益率を、グローバル医療機器市場における同業他社と同水準まで大幅に改善する余地があると考えています。

当社は、コスト削減と資本効率改善に向けた取り組みを最優先事項として強化してまいります。既にこのような取り組みに向けたワーキンググループを立ち上げており、その第一弾の施策として、2020年3月期の販売管理費(研究開発費を含みます。)を2018年3月期水準にまで圧縮する計画を4月1日より実施いたします。なお、2019年3月期の販売管理費については従来の公表内容からの変更はございません。

2020年3月期以降の長期的なコスト削減計画の策定を進めており、次期経営戦略の修正案と併せて公表いたします。また、各事業の設備投資計画を見直すことで、株主還元策や規律あるM&A投資を可能とするフリー・キャッシュ・フローの持続的増加を実現し、世界トップレベルのグローバル・メドテックカンパニーを目指します。

#### ●当社ビジネスのグローバル化に伴い、指名委員会等設置会社への移行および新取締役候補者3名の選任を検討

Transform Olympus および Transform Medical のプランを策定し、特に当社事業のグローバル化をより一層促進することに伴い、本年の定時株主総会において当社の取締役会の体制及び構成の変更をご提案することを検討しています。

当社の取締役会の体制をビジネスのグローバル展開に即したものにし、経営の監督を強化することを目的として、2019年の定時株主総会において、監査役会設置会社から指名委員会等設置会社への移行を可能にするための定款変更をご提案することを検討しています。指名委員会等設置会社への移行は、経営陣による戦略およびベストプラクティスの遂行に対する取締役会の経営の監督機能を強化し、経営の機動性を向上させ、グローバルな経営実績を有する取締役候補者の<sup>しょうへい</sup>招聘に繋がります。

さらに、指名委員会は、現在3名の新取締役候補の選任を検討しており、2019年6月の定時株主総会に対してご提案する予定です。

最大株主である ValueAct Capital Management L.P.(以下「ValueAct」)との継続的かつ協調的な関係に基づき、同社のパートナーを務める D. Robert Hale 氏を取締役として選任する議案を2019年6月の定時株主総会に対してご提案する予定です。Hale 氏には、多様な業界における経験豊富な経営コンサルタントおよび投資家として、グローバル企業の変革を助言した経験及び、グローバルな資本市場やヘルスケア業界における知見を取締役会に提供いただく予定です。

2019年の定時株主総会においては、その他2名の新取締役候補の選任もご提案する予定です。メドテック業界のトップクラスの企業における経営実績を有する候補者の選任も予定しており、かかる候補者の検討に際しては、ValueAct からの助言も参考にする予定です。

この点に関連して、当社新代表取締役社長兼 CEO 竹内のコメントは以下の通りです。

「過去数年間にわたって当社自らが行った諸施策により、一定の成果を上げてまいりました。今回、ガバナンス体制を変更し、グローバル企業と同様の体制を構築することにより、今後より一層の成果を上げることができるものと考えます。ValueActのこれまでの経験と建設的なアプローチには好印象を持っており、Rob Hale氏を当社の取締役候補として迎え入れ、同氏のグローバルな知見・経験を取り入れることが、当社の変革及び当社企業価値の向上に繋がると判断いたしました。」

Hale氏のコメントは以下の通りです。

「一年にわたり、ValueActは笹氏、竹内氏を含むオリンパスの経営陣と非常に建設的な協議を重ねてきました。ValueActはオリンパスの掲げるビジョンに賛同しており、オリンパスのガバナンスと経営体制をグローバル化させる変革の取り組みは、オリンパスが有する潜在能力を最大限に発揮し、価値創出を加速させると考えています。次期定時株主総会のオリンパスの取締役候補者として迎え入れて頂いたことを光栄に思っており、すべてのステークホルダーにとっての長期的な価値創出を実現するために、竹内氏とその他のオリンパスの方々との協業を楽しみにしています。」

また、本プランについて、当社新代表取締役社長兼CEO竹内のコメントは以下のとおりです。

「当社は、グローバル・メドテックカンパニーとして飛躍していく所存です。『Transform Olympus』は、当社の幹部社員の登用、人材採用、各事業部門の組織体制および管理方法、並びにコーポレートガバナンスを変革するための重要な一歩であると認識しています。これらの変革を実行することで、オリンパスはより効率的かつ機動的な組織として、長期的な株主価値を最大化し、ステークホルダーの皆様の期待に応えることが可能になるものと考えます。」

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。